

## 「横須賀市中小企業景況レポート」の概要

< D I 値に関する表記の仕方 > (△はマイナスを表す)

↑ = 「良い」 (15P 以上)    ↗ = 「やや良い」 (6P~14P)

⇔ = 「変わらない(普通)」 (△5P~5P)

↘ = 「やや悪い」 (△6P~△14P)    ↓ = 「悪い」 (△15P 以下)

## (1) 調査回答企業の業種別内訳と景況感

	合計	内 訳				
		製造業	建設業	卸・小売業	不動産業	サービス業
景況感調査 (D I 値) 調査回答企業数 (うち市と財団調査企業数)	209社 (15社)	44社	38社	59社	19社	49社
今期の景況感 (D I 値) 【H24. 10月~12月】	↓ △18P	↘ △11P	↗ 10P	↓ △31P	↓ △26P	↓ △21P
次期の景況感 (D I 値) 【H25. 1月~3月】	↓ △19P	↓ △17P	⇔ △3P	↓ △36P	↘ △11P	↓ △16P
特別調査 調査回答企業数 (うち市と財団調査企業数)	149社 (15社)	42社	22社	42社	12社	31社

## (2) 景況感調査の結果概要

全業種の今期景況D I 値は△18Pで景況感は悪いと言えます。また、「最近の経済状況は急激に変化するため、予測しづらい」と話す方が多く、先行きに不透明感を感じている状況で、次期は△19Pと大きな変化はない見通しとなっています。

業種的に今期は、建設業が10Pで景況感がやや良く、「消費税増税を前にした駆け込み需要の色合いが強い」「従業員を増やし売上が大幅増となった」などの声が寄せられました。

一方、他4業種のD I 値はマイナスで景況感は悪く、「施設、設備の老朽化により改修費用がかさむ」「大手企業の値下げ圧力が強すぎるような気がする」「海岸に近い物件が敬遠される傾向が続いている」「低価格店舗が増え客足は遠のいている」等の声が寄せられました。

## (3) 特別調査 (現在の問題や課題) の結果概要

特別調査項目の経営上の問題や課題では、「民間需要の停滞」や「販売単価の低下・上昇難」を挙げた企業が多くみられました。

1番の問題を業種別にみると、製造業は「民間需要の停滞」。建設業は「官公需要の停滞」。卸・小売業は「大企業や大型店の進出」「民間需要の停滞」。不動産業は「ニーズの変化への対応」。サービス業は「販売単価の低下・上昇難」を挙げています。

## ☆事業者の主な声から☆

- ・ 為替問題 (円高) で親会社の受注が取れていないため仕事が来ない。(製造業)
- ・ 公共工事停滞で受注額が減少、粗利益減少となっている。(建設業)
- ・ 大型店舗には小型店舗では、なかなか太刀打ち出来ない。(卸・小売業)
- ・ 景気の影響と、地域の高齢化に伴って、消費全体量は減少し続けている。(卸・小売業)
- ・ 安定した売上確保と収益を上げる経営を目指し、生残り策を模索中である。(不動産業)
- ・ 競争激化によって販売単価の低下がある。(サービス業)